

# 文化を育んだ「しなやかさ」は 京都が残す日本の美質なのだ



周囲の山々から流れ下る水は京都盆地に深くたたえられる。その保水力は、京都人の豊かな「心の保水力」を形づくってきた。

京都は、地下にたっぷり水を蓄えている。そう教えてくれたのは尾池和夫さんだ。と思うが、わたしがなるほど実感するのは、大山崎あたりを車で通るときだ。

京都が植物ならば  
地下の保水力は  
なみなみではない



## 京都の保水力

池坊短期大学学長  
中西 進さん



なかにし・すすむ 1929年、東京都生まれ。国文学者。大阪女子大学学長、京都市立芸文館学長などを歴任。2004年、文化功労者。現在、奈良県立万葉文化館館長なども務める。主な著書に「万葉集全訳注」「日本人の忘れもの」など。

は住民の心の保水力となる。京都がくぐんで来た文化が、この人間の心の保水力によるものだったことも、よく合点されるではないか。

京ことばの  
やさしさ、情調、  
心性のゆかしさ……

たとえば、京ことばのやさしさ。潤いにみちた情調。心性のゆかしさ。身のこなしのしなやかさ。わたしは、これら人間の保水力と呼びたい。

これらをほとんど忘れて、どこにもある日本の都市とさほど変わらない方向へと歩いているのではないか。猫にまで敬語を使い、「……」という言いさしの語調を残す京ことばは、だんだん少なくなってきた。

京都はよく、「山紫水明」をもってたたえられるが、ここにも指摘されている山と水との合力が京都の特徴である。もちろん、大地の保水力

しかし、京都らしさは死んでいない。その証拠は、しっかりと伝統的な町並みや家屋の構造を守りつづけている点に見られる。



(毎週日曜日に掲載します)

ごませる虫籠窓がある。あるいは通りに向けてすりと並べた虫籠格子もまたまだ健在である。

守り続ける町並み  
まだ京都らしさは  
死んでいない

そこから、ぼんやり中の灯りがもれてくると、いったいどんな「虫」がその中で大切にされているのだろうと思う。

わたしたちは「国家を築いたしなやかな日本知(ウェッジ)2006」という本を書いたことがある。「しなやかさ」は京都の美質でありながら、じつは日本そのものの美質である。どうせなら、京都は長く伝統日本の中心にあったのだから、そこで京都まで「しなやかさ」を失うと、日本全体が「しなやかさ」を忘れることになる。京都の忘れものは日本の忘れものなのだから。

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。他人への思いやりと助け合いの心、いのちへの尊敬、物を大切にすること。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から、温故知新の知恵を発信する。

## 日本の暦

小暑  
(新暦7月7日)

春夏秋冬それぞれに六つの節気を配って気候の推移を示した「二十四節気」は、古代中国で定められた太陰暦の基準点。四季のあいだにもう一つ四季があるといわれる京都は、季節の移ろいさまも美しく、二十四節気の言い得て妙な言葉から、いつぞやめぐる季節を実感できます。こしは7月7日が「小暑」。



服飾評論家・エッセイスト  
市田ひろみ

### ■おおきに

「出しゃばつたらあかん」「えはつたらあかん」「えはつたらあかん」「恩、忘れたらあかん」「弱いもんいじめたらあかん」

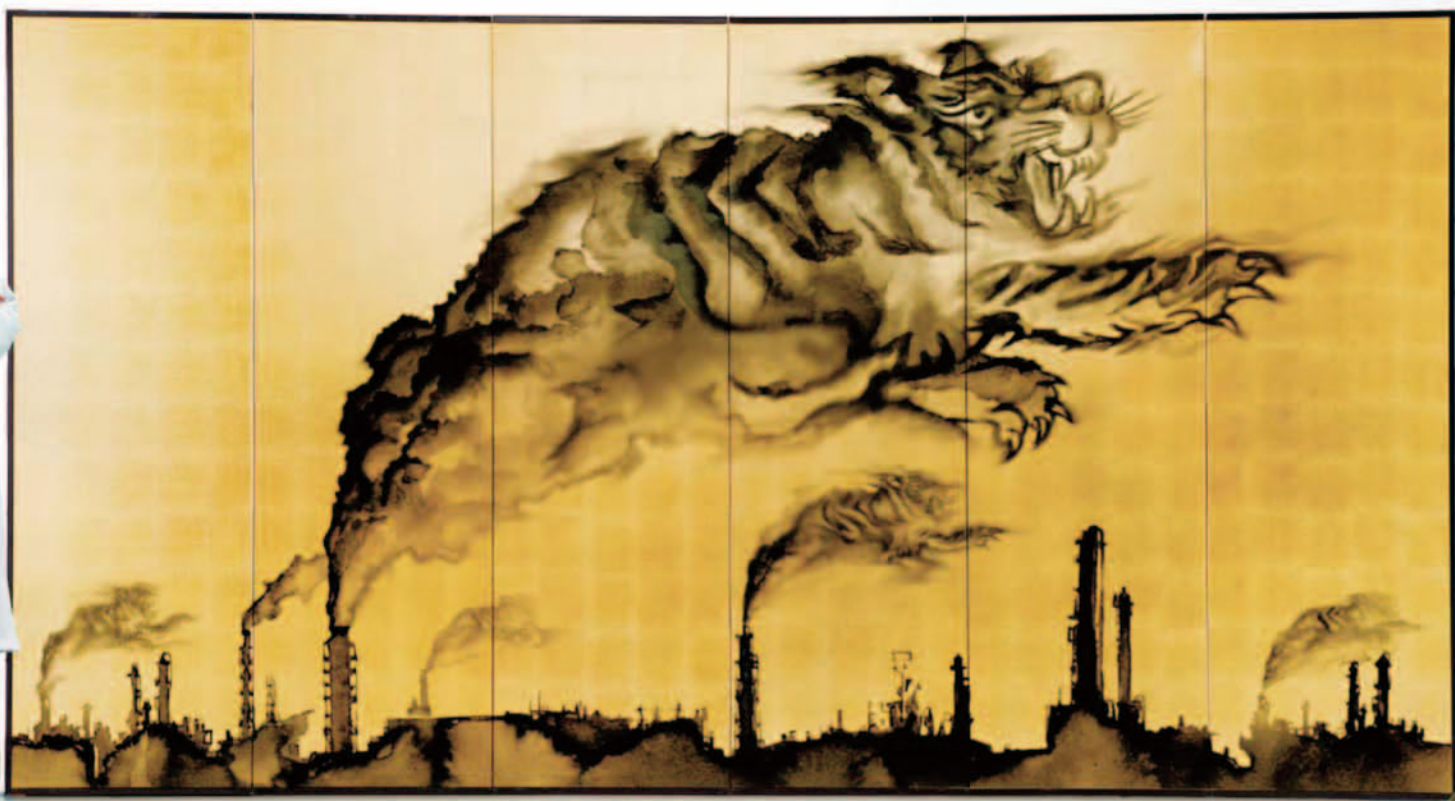
「聞いてへんラジオ消しときゃ」「返事は聞かへんよ」「せなあかん」明治の親達は、たえずこんなことを言っていた。子どもは、またおなじことを言うてると、かるく、いなしている。しかし、そんな親のシヨートフレーズは子供の血肉の中に、しっかりとのびこんでいるのだ。

今、思えば親のさりげないメッセージは、エコにもなっているし、子供の精神的成長にもかかっている。私は、明治の親に育てられたことを感謝している。感謝こそ時代の大きな忘れものだ。

京都には「おおきに」という美しくやさしい言葉がある。物があふれている時代も実は「おおきに」の心でつながっていることを、子供達におしえてあげたいものだ。

(次回7月10日のメッセージは放送作家の丘 眞奈美さんです)

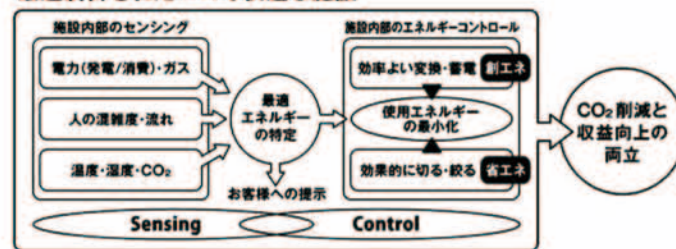
## オムロンなら、屏風の虎、追い出してみせます。



### やっかいなCO<sub>2</sub>を「見える化」してコントロール。企業のCO<sub>2</sub>削減と収益向上に貢献します。

地球環境のために、オフィスや工場のCO<sub>2</sub>排出を減らすこと。ビジネスの成長のために、生産性を向上させて利益を上げていくこと。企業活動に求められるこのふたつの課題、いどに解決するのはむずかしいと思いませんか?じつは、技術を上手に生かせば可能なんです。それが、オムロンのセンシング&コントロール技術。ふだんは見えない、オフィスや工場のエネルギー消費。これをセンシング技術で「見える化」しコントロールすることで、CO<sub>2</sub>とエネルギーコストを同時に削減。省エネをしながら生産性を上げることができ、収益向上に貢献します。経営負担になる省エネではなく、経営のプラスになるエネルギーマネジメントへ。エコの難問を解決するなら、オムロンにおまかせください。

#### Sensing & Control技術により 最適制御されたエコで快適な施設



人に、もっと最適な社会を。オムロンに、できること。